

# 南信州広域連合第6回広域連合会議 結果報告

日時：令和元年9月19日(月) 15:37~16:26

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】13市町村長（高森町長欠席）、副管理者

〔南信州地域振興局〕奥原副局長

〔飯田建設事務所〕丸山所長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔長野県健康福祉政策課〕永原課長

〔飯田市リニア推進部リニア整備課〕米山課長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤次長補佐兼庶務係長

櫻井次長補佐兼広域振興係長・秋山介護保険係長・宇佐美庶務係主事

## 1 開会…15:37

## 2 広域連合長あいさつ

・本日、高森町長は豚コレラの関係で欠席しているが、豚コレラの封じ込めについては引き続きの課題である。豚コレラ対策については、県でも補正予算で対応をしていただいております。これからは養豚に対するワクチン投与が必要である。農林水産大臣には1日も早く決断をしていただき、養豚農家の皆さんの切なる思いに添えていただきたい。県でも知事をはじめ、農林水産省に対する働きかけをしていただけるという話も聞いており、全国市長会等でもこういった動きをするよう取りまとめを行っている状況。この問題を1日も早く解決し、安心して養豚農家の皆さん方が生業に励めるようにしたい。

・台風15号については、いまだに停電地域が多数あり、1日も早い復旧復興を望む。当地域は千葉県君津市と災害時相互応援協定を結んでおり、人的物的支援を行っている。

・10月から消費税増税でそれぞれの市町村でも対応が進んでいると思うが、幼児教育・保育の無償化も合わせて10月から実施ということで、全国的な課題も多い中で確実なるスタートが切れるよう課題を共有しながらできればと思う。

## 3 協議・報告事項

(1) 長野県立病院機構第3期中期目標について（資料No.1）【説明者：長野県健康福祉課永原課長】

長野県立病院機構は、独立行政法人として平成22年の4月に設立。

現在、5か年計画の2期目、来年度から第3期となる。法律に基づいて県が病院機構に対して中期目標を示すことになっている。その中期目標に基づいて病院機構では中期計画を策定することとなる。本日は、県として病院機構に対してこのような考え方であるという中期目標について説明をする。

赤字経営が続いていた時期もあったが、現在は態勢を立て直していただき第2期では黒字経営で終わる見込み。

第3期を迎えるにあたり、医療を取り巻く環境の変化ということで超高齢化、人口減少社会を迎え疾病構造が変わってくる。その変化に対応した病院づくりをいかにやっていくかが、大きなテーマになってくる。

地域包括ケア体制の構築については、先進的に取り組んでいただいているが、さらに磨きをかけてモ

デルとしての取り組みを進めていただきたい。

新たな医療ニーズについては、こころの医療センター駒ヶ根でギャンブル依存症、ゲーム依存症などの対応も検討していきたい。

＊第3期中期目標の素案について

期間は令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間。

目標で重要としているのが地域医療の提供。下伊那南部地域を主な診療圏としている阿南病院と木曾病院は、地域を医療で支える使命を担うことが重要な課題であり、在宅介護と連携した在宅医療を提供することで、地域包括ケアシステムの中核としての役割を果たす、これがポイントとなる。

へき地医療については、阿南病院と木曾病院をへき地医療拠点病院として指定しており、救急医療体制を引き続き維持するとともに、無医地区への巡回診療や、医師不足に悩むへき地診療所を引き続き支援する。

精神医療については、新たなニーズに対応するよう充実・強化に取り組んでいく。

認知症治療の提供については、阿南病院でもすでに取り組んで進めていただいているが、さらに強化していただきたい。

介護サービスの提供については、新たに訪問看護ステーションを運営し介護サービスの充実に努めていただきたい。

地域連携の推進では、1つは地域医療構想への対応ということで、他の圏域にある病院との役割分担や連携について取り組んでいくことが重要である。

2つ目は、地域包括ケアシステムの推進で、全県のモデルとなり得る仕組みについて取り組んでいただきたい。

医療の質の向上に関することで先端技術の活用とあるが、遠隔診療に加えて電子カルテにも取り組み医療従事者の負担軽減、住民への医療サービスの向上に努めていきたいと考えている。

第3期については、現在の阿南病院が果たしている役割をこれからもしっかりと果たしていただくということを肝にしながら考えていきたい。今回の中期目標については、11月県議会に議案として提出し承認いただくことになる。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(2) リニア駅周辺整備の検討状況について（資料No.2）【説明者：飯田市リニア整備課米山課長】

・リニア駅周辺整備の基本設計と概算事業費について

「飯田・リニア駅前空間デザインノート（案）」に沿って説明する。

大屋根について、構造的な変更を行った。大屋根によって、信州らしさ、伊那谷らしさを表現したい。基本設計については、こういった形でまとめてあるが、まだまだ詳細については固まっているというわけではない。今後実施設計の段階で詳細部分を詰めていく予定。

デザインノートを基本として整備を行っていく。エネルギーセンター、商業施設、店舗等については、民間事業者をお願いをしていくことを想定している。大屋根については、段階的に整備する予定で、全体で1.6ha程度あるが、トランジット機能を確保する1.1haを先行して整備する。駐車場は、平面駐車場で当面500台程度を整備する。

JR飯田線の乗り換え新駅については、JR東海との協議を行っているが、未確定のため概算事業費に含めていない。現段階でのイニシャルコストは、概算91億円。その内、整備工事費は41億円。

完成後の施設の維持管理費は、年間65百万円と算出している。

・今後の課題について

国の補助金、交付金制度について、リニアに関連した特別なものはない。スーパーメガリージョン構想の策定経過での議論も踏まえる中、国においても国土政策として明確に位置付けた上で、中間駅に対しより積極的な支援を行うよう、県とともに国への働きかけを強化していく。

民間事業者に委ねる商業施設及び店舗については、整備運営方法についても地域の魅力を十分に発信できる民間業者を誘引していく仕組みづくりを進める。デザインノートにもまとめてあるが、民間の力、

ノウハウを持ち込むことによって、駅周辺の賑わいを持続できるよう積極的に取り組んでいく。

次世代モビリティサービスを見据えた二次交通への対応を進める。

この他にも、課題については整理し認識をして、今後さらに検討を進めていく。

事務局長：事務局からの首長方へお願いになるが、これから実施設計という中でインフォメーションをどうするか、14市町村へどうやって人を誘っていくかなど、飯田市リニア推進部との連携・協議が大切になってくる。そういう協議の場を作って飯田市リニア推進部と考えていきたいと思っているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(3) リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討について（資料No.3）【説明者：高田事務局長】

リニア駅周辺の基本設計も含めて色んな動きが出てきたので、それらも含めて整備をしたい。検討委員会にもこういった情報を伝え、さらに検討を進めていきたい。

・経過及び状況の確認

広域連合は、本年2月に「リニア時代に向けた新施設の整備に関する基本的考え方(案)」を発表した。

その後、住民説明会、パブリックコメントを経て検討委員会を設置、施設規模等について検討が進められている。また、議会側においても議会の中に「アリーナ機能を中心とする新施設整備検討委員会」が設置された。広域連合会議の情報もそこで説明をするようになっている。

リニア中央新幹線に関連する検討も進んできている。

9月10日に伊那谷自治体会議があり、リニアバレー構想のテーマごとに実現プランを作成、民間と連携して取り組むことが確認されている。

9月11日に飯田市でリニア駅周辺整備デザイン会議があり、リニア駅周辺整備の基本設計と概算事業費が公表された。実施設計に向けて関わりが出てくる。

長野県、飯田市、北部5町村が参加する、リニア駅近郊エリアのまちづくり構想の策定事業着手ということで、県の予算で動き出す。

リニア中央新幹線の建設だけではなく、それを活かしていくための色々な取り組みが始まっていく。

こうした状況を踏まえ、新施設の整備に関して、現時点における広域連合会議としての確認事項を整理しておきたい。

・現時点における広域連合会議の確認事項（今後の検討の方向性）

＊施設の建設・運営の方式

広域連合が事業主体となる公設公営方式は難しいので、公設民営方式か民設民営方式で検討を進める上で、参画いただける民間事業者の確保が最重要課題。

＊事業実施の意思決定に必要な要素

参画いただける民間事業者の確保。民間事業者を確保するためには、アリーナ機能単体の検討ではなく、リニア駅周辺整備、リニア駅近郊エリアのまちづくり構想、エス・バード、飯田文化会館改築等と、機能分担や連携をして地域づくりを推進するビジョンを描く必要がある。

＊施設を整備する場所に関すること

今まで候補地の情報提供を求めた経過はあるが、今説明したことや民間事業者の確保などの視点からさらに検討していく必要があると考えている。

こういった整備をプロジェクト的に首長方に集まっていただき検討いただいた。

・これらを踏まえた今後の検討の進め方

まずは、ビジョンを描くことと並行して民間事業者へアプローチをしていく。現在、後期基本計画の策定に取り組んでいるが、地域のビジョン策定とアリーナ機能を中心とする複合施設整備の事業化を、後期基本計画の重要課題として取り組んでいく。

ビジョンの策定と併せて、この地域の地域振興策も検討を進めていく。地域振興策の例としては、情報発信、観光誘客、移住定住対策、新たな二次交通対策と道路整備の重点化、ICTなど新技術への対応など。

現時点で、これらを確認してビジョンを描き、民間事業者にアプローチをしていくというところへ向かっていきたいので提案させていただく。

(主な意見等)

豊丘村 : アリーナのみならずリニア駅周辺整備について、エス・バードや飯田文化会館なども含める中で、この地域の開発がどういう形でいいのか一応方角がでているので、これから議論しやすくなっていくと感じている。施設を整備する場所に関することであるが、民間を確保するには、飯田駅から徒歩で行けるところがいいのかなと個人的には思う。検討委員会には、そのような視点も鑑みていただければと思う。

今後の検討の進め方のところでは、色々な切り口があると思うが、リニアに向けての伊那谷全体の魅力と、各市町村の魅力を活かしながら、それぞれが何をしていくかということを考えることが必要と改めて思った。

連合長 : ただ今いただいた意見も参考にしながら、確認事項についてこれから進めていくということとよろしいか。

→ 異議なし、提案内容確認される。

(4) 南信州民俗芸能月間について (資料No.4) 【説明者：櫻井次長補佐兼広域振興係長】

南信州民俗芸能継承推進協議会で、10月から11月を南信州民俗芸能月間として期間中に協議会が主催する事業を紹介する。

・南信州民俗芸能フォーラムについて

10月5日、飯田市鼎文化センターで開催。國學院大学の小川教授による基調講演、次にパネルディスカッションでパネリストとして地域の民俗芸能を伝承する若手の方をお願いをして、民俗芸能に対する思いなど議論をしていただく。民俗芸能の上演については、三遠南信地域の交流がある浜松市の西浦田楽、飯田女子高と飯田高校の合同での黒田人形の上演を行う。

・第3回伊那民俗研究集会について

10月13、14日に飯田市美術博物館講堂で開催。今年のテーマは、「残された写真から地域の民俗を読み解く」として、地域に残っている古い写真と保存の活用について研究する集会となっている。

・南信州民俗芸能出張講座 i n 安曇野

10月20日に安曇野市にて行い、南信州の取り組みを飯田市美術博物館の櫻井学芸員に講評していただく。

・南信州民俗芸能フォーラム i n 國學院

11月9日に東京都の國學院大学にて行い、天龍村向方のお潔め祭りをテーマとした映像・解説と上演をしていただく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(5) 飯田広域消防本部から (資料No.5) 【説明者：有賀消防次長兼総務課長】

熱中症疑いによる救急搬送の速報値、9月13日現在112人を搬送。昨日9月18日まででは114人を搬送。昨年は149人でそれに次ぐ多さ、8月、9月は昨年を上回る搬送件数。

火災は昨年72件だったが、今年の件数は今朝の火災により72件になった。この地域の特性として、これから柿の燻蒸作業など特別な原因による火災もあるので、注意喚起・予防に努めていく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(6) 後援依頼について (資料No.6) 【説明者：加藤次長補佐兼庶務係長】

4件の申請。

・伊那人形芝居保存協議会主催、第37回伊那人形芝居公演。飯田市、阿南町、箕輪町、3市町教育委員会が共催。昨年度も申請あり。

・高森町長及び豊丘村長の連名での申請で、「We b系在宅ワーク入門セミナー」。インターネットを活用して時間や場所を選ばない働き方を紹介し、その定着を図っていききたいというもの。今までは、高森町民、豊丘村民を対象としていたが、もっと広い地域にということで飯田下伊那圏域の住民も対象とするもの。

・長野県飯田建設事務所及び下伊那土木振興会主催、下伊那砂防講演会。昨年度も申請あり。

・飯田市及び三遠南信自動車道建設促進飯田市九地区期成同盟会主催、三遠南信自動車道飯橋道路2工区全線開通前記念イベント。11月に予定をしているが、詳細日程、具体的な内容については調整中。

→ 異議なし、承認。

#### 4 長野県

##### (1) 南信州地域振興局

・豚コレラ発生に伴う野生鳥獣対策等について

＊令和元年度狩猟期間の対応

今年度は狩猟禁止区域を設定せず、狩猟者に対する交差汚染防止対策を実施した上で狩猟を解禁。昨日から狩猟者に対して豚コレラ衛生対策講習会を実施している。

＊野生イノシシの拡散防止事業（豚コレラ対策）

豚コレラ対策上、地形的に重要な箇所（防衛ライン）を設定し、重点的な捕獲活動を実施する。該当町村は、平谷村、売木村、阿南町、天龍村、阿智村、南木曾町。

＊南信州地域のクマへの対応状況

今年はクマの出没が多い。目撃件数は前年度の約2倍、果樹等の被害も3倍。出没した時の対応は、資料に記載のとおりだが、不明な点があれば地域振興局林務課までご連絡いただきたい。

・三遠南信地域マラソン大会スタンプラリーについて

愛知県、静岡県の実地機関と連携をしてマラソン大会スタンプラリーを行う。

ランナーだけではなく、応援の皆さんなども参加ができるので幅広い交流ができると思う。

このイベントは、地域振興推進費を活用して取り組む。

##### (2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし。

##### (3) 飯田保健福祉事務所

→ 報告事項なし。

#### 5 当面の日程について

10月23日（水） 広域連合会議（下條村）

#### 6 閉会…16:26